

循環する地域の森林資源を 最大限に有効活用

丸玉産業株式会社 津別工場長 成田 昇



現在、年間30万㎡の原木を消費していますが、今後も原木は問題なく調達できるだろうと思います。集荷範囲は、一部、道央のほうから入ってくる場合もありますが、基本的には津別町から150km圏内です。第1ラインは、カラマツがちょうど伐期を迎えているという時期、第2ラインは、トドマツが出てくるという資源背景で設備しています。森林資源は、再生可能な資源として、北海道産植林木を活用すれば、バイオマスグリーンサイクルを実行可能で、森林資源が枯渇する心配はありません。実際には、数年前に製材が売れないから山を伐らないということがありまして、原木の調達に苦労したこともありましたが、基本的には、森林組合や構成員の方を含め、きっちりと入荷して頂いています。

平成20年までは、広葉樹合板も生産しており、技術的な不安もない事から、今後も有効な資源であれば、あらゆる樹種に挑戦してみたいと思います。

また、年間1千万円を「森づくり基金」として、津別町に寄付しています。津別町は、「愛林の町」宣言をし、積極的に育林に取り組んでいます。森づくりに役立てて頂きたいと言うことです。

現在、3直24時間体制で週休2日、稼動していますが、当初は、北海道産カラマツ構造用合板が市場に受け入れられませんでした。当時は、ロシア産ラーチが主力で、北海道産カラマツは物性が弱いのではないと言われてきました。確かにロシア産ラーチに比べれば強度などは弱かったものの、JAS規格は十分に満たしており、ハウスメーカーさん等に地道な営業活動を行い市場に認知されています。

トドマツ構造用合板についても、ここ2~3年で認知され、これから市場に受け入れられていくと思っています。使っていただいた方からは、軽くて施工が

しやすいなど、良い評価を頂いています。

住宅の建築棟数は、今後下がっていくかと思いますが、合板の需要は、まだまだあると思っています。現在、ラワン合板が月間20万㎡以上輸入されています。ただ、資源背景から言いますと、いつまでラワン合板が入ってくるか判りません。ラワン合板にとって代わるものを道産植林木で作っていきたいと考えています。ラワン合板は、節も無く加工しやすい、合板の優等生でして、それに比べれば、カラマツ、トドマツはまだ改良の余地があります。日々、技術開発を続け、ラワン合板に代わる道産植林木合板を高付加価値合板という位置づけをしまして、早く、お客様に認められる商品を作りたいと努力しています。

第2ラインの設備にあわせて、合板を生産する工程で生じた端材を木質燃料とするバイオマスコージェネレーション設備を導入いたしました。化石燃料を使用することなく、製品を製造する過程で使用する熱・電気エネルギーのほぼ全量を供給し、平成19年度実績で化石燃料を原油換算で24,000kL/年、CO₂を69,000t/年削減しました。また、グリーン電力・熱証書も取得、バイオマスエコ事業により、「新エネ大賞」で北海道知事賞、国の経済産業大臣賞を受賞し、国の「新エネ百選」にも選定されています。昨年7月からは、北電に売電もしています。灰も土壌改良剤などとしてリサイクル販売しています。

昨年1年間で道内外より700人を超える工場見学者がありました。なかには、80人超の団体もありました。ともすれば、合板工場は“木を伐って環境破壊をしているのではないだろうか”などと誤解されないよう、見学者を積極的に受け入れて、森づくりの取組みなどを知って頂くことが必要だと思っています。

国内最大級の合板工場で、針葉樹構造用合板が主力。本社は津別町。森づくり基金の寄付や、バイオマス発電、モーダルシフトなど、環境にやさしい取り組みを数多く行っている。

<http://www.marutama-ind.com/>